令和５年1月13日
KSU VISION DAY実行委員会

KSU VISION DAY 文×理×芸=展

# 実施結果報告書

# 開催趣旨・実施概要

## 開催趣旨

2020年度に創立60周年を迎えた本学は、40年後の創立100周年に向けたビジョン「新たな知と地をデザインする大学へ―もっと意外に。もっと自由に。―」を掲げ、その実現に向けて「文理芸融合のグローバル総合大学へ」をスローガンに中期計画である8つの分野（教育、研究、国際化、産学連携、地域・社会貢献、ダイバーシティー、ブランディング、経営基盤）で取り組みを進めています。

この「KSU　VISION　DAY」は、地域社会の皆様に来てもらい、見てもらい、知ってもらう、そして、研究者の持つシーズや大学の研究成果である知的財産をわかりやすく紹介し、地域社会へ還元すると共に、企業の事業化に役立ち、また企業の技術課題等のニーズ情報を発掘する機会を作りたい、そんな想いを込めて開催します。

また、研究以外にも日頃から取り組んでいる教育、SDGs、社会貢献のボランティア活動等を発表します。

本学は地域の皆様の課題に同じ目線で共に立ち向かい、新たな叡智を生み出しながら教育研究の成果による課題解決に取り組み、活力ある地域づくり、さらに世界をデザインする大学を目指します。

さらにこの催物を通して、教職員の一体感の醸成、学内研究者の分野や所属を超えた交流及び共同研究の促進、各部所の相互交流と連携の促進を図ります。

## 実施概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 名称 | KSU VISION DAY　文×理×芸＝展 | | |
| 目的 | ・九産大の取組の発信<br>・地域への研究成果の還元<br>・教員同士の交流から共同研究の推進 | | |
| 会期 | 令和4年11月3日(木) 13：00～16：00<br>11月4日(金) 10：00～14：00 | | |
| 会場 | 大楠アリーナ2020 | 入場料 | 無料 |
| 出展内容 | 研究シーズ、プロジェクト型教育、産学連携、事業活動、大学院、<br>ビジョン発信、魅力発信 | | |
| 基調講演 | 11月4日(金) 11：00～12：00<br>株式会社QTnet 代表取締役社長 岩﨑 和人氏<br>演題：未来を拓く Ⅱ ～ Try anything new ～ | | |
| 来場対象者 | 企業・自治体・高校・後援会等の関係者、教職員、学生 | | |
| 来場者数目標 | 教職員300名以上(教職員総数の1/2) | | |
| 主催 | 九州産業大学、九州産業大学造形短期大学部 | | |
| 後援 | 一般社団法人　九州経済連合会 | | |

# 実施結果

## ■出展数

| エリア | テーマ数 | 小間数 |
|---|---|---|
| 研究シーズ | 71 | 71 |
| プロジェクト型教育 | 17 | 17 |
| 産学連携事例 | 13 | 18 |
| 事業活動報告 | 8 | 10 |
| 大学院注１ | 1 | 10 |
| 魅力発信 | 1 | 4 |
| ビジョン発信 | 1 | 1 |
| 合計 | 112 | 131 |

注１　大学院エリアは40枚の研究成果パネルの展示を行った。

## ■期間中来場者数

（単位：人）

| | 11月3日 | 11月4日 | 期間合計 |
|---|---|---|---|
| 学外者 | 411 | 256 | 667 |
| 教職員 | 188 | 240 | 428 |
| 学生 | 87 | 128 | 215 |
| **合計** | **686** | **624** | **1,310** |

## ■出展者数

（単位：人）

| | 11月3日 | 11月4日 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 教職員 | 94 | 83 | 177 |
| 学生 | 99 | 98 | 197 |
| 合計 | 193 | 181 | 374 |

※教職員の人数は事前ブース対応調査から引用しているため実数とは異なる可能性があります。
※学生の人数はアルバイト採用報告書から引用しています。

## ■セミナー参加者数

（単位：人）

| | 11月4日 |
|---|---|
| 基調講演 | 211 |
| 実用化支援研究費成果発表 | 21 |
| 産業経営研究所研究成果発表 | 21 |

# 会場概要・設営記録写真

## 会場概要

## 設営記録写真

11/2/8:00～資材の搬入開始

会場にスロープが無く、エレベータも小型であったためクレーンを使用した

9:00～会場内に養生シートを設置

11:00～ブースの組み立て開始

14:00　セミナー会場の設営完了

15:00～出展者の設営開始
17:30　会場全体の設営が完了

# 会場記録写真

①研究シーズ紹介（71テーマ）

②プロジェクト型教育紹介（17テーマ）

③産学連携事例（13テーマ）

④事業活動（8テーマ）

⑤大学院

⑥魅力発信

⑦ビジョン発信

会場全体

# セミナー・その他記録写真

## 基調講演

## 実用化支援研究費成果発表

## 産業経営研究所研究発表

## エントランス

## 総合受付

## インフォメーション

## 会場入口

## 入試相談コーナー

## 場外サイン

# 広報活動実績

## ■広報制作物

(1)案内チラシ及び学内掲示用ポスター

本学納品日： 9月21日

発行部数：94,000部

(2)リーフレット（当日分）

本学納品日：10月26日

発行部数：1,000部

▼チラシ表

▼チラシ裏

▼リーフレット

## ■本学ホームページ特設サイト

公開日：9月14日

▼特設サイト（一部抜粋）

## ■広報関係

(1)財界九州10月号

発行日：9月20日

内　容：「KSU VISION DAY」に関する

北島学長インタビュー記事

財界九州10月号
掲載ページ▶

(2)プレスリリース

配布日：10月17日

(3)新聞広告（日本経済新聞／九州全域＋山口県全域：約124,000部）

掲載時期：10月17日

誌面サイズ：５段（天地 約17㎝×全幅 約38㎝）

(4)本イベントのアーカイブ映像の配信

配信時期：イベント終了後、本学ホームページ特設サイトにて公開

映像時間：約3分

# 効果測定について

## ■「広報活動」に関する効果測定

(1) 本学ホームページ特設サイトの訪問者数等（期間：9月14日～11月4日）

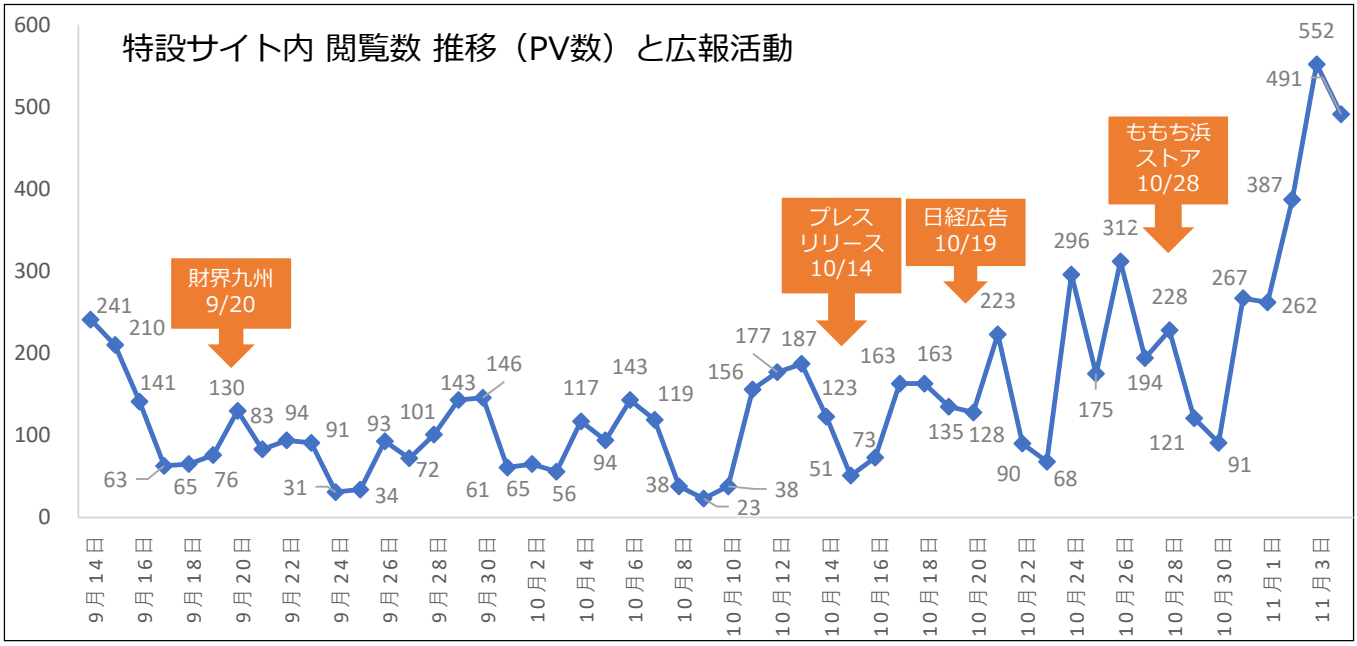
【目　　的】本イベントの認知度測定

【対 象 者】特設サイト訪問者

【定量指標】サイト訪問件数 総計：6,423件、特設サイト内の閲覧数 総計:7,681ＰＶ

（参考：大学HP）トップページ訪問件数 総計：657,520件、左記ページ閲覧数 総計:836,021件

| まとめ | 9月14日特設サイト開設後、複数回の広報活動により10月中旬以降、閲覧数が増加。<br>特設サイト訪問者数も6千件を超え、本イベント開催が本学HPの誘導に繋がっている。 |
|---|---|




(2) WEBによる事前申込時のイベント認知ルート

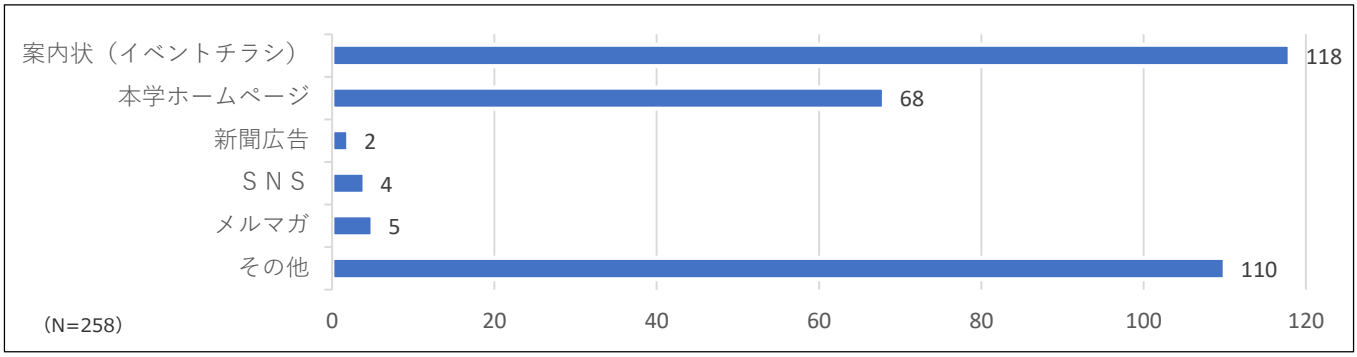
【目　　的】イベント告知時の有効な広報手法の測定

【対 象 者】WEBによる事前申込者

【定量指標】認知ルート６項目の集計結果（事前申込時のWEBアンケート）

| まとめ | 認知ルートは案内状(イベントチラシ)、その他、ホームページの順で多い傾向にあった。<br>その他については、各部所（教職員）からの個別案内によるものと思われる。 |
|---|---|

本イベントを知ったきっかけ（複数回答可）



# 効果測定について

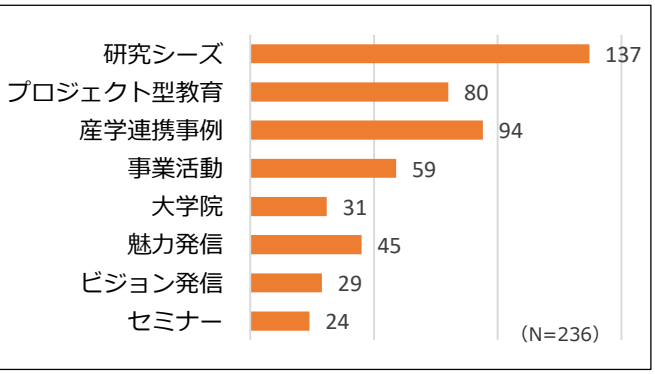
## ■「イベント開催」に関する効果測定

(1) 来場者の満足度等

【目　　的】イベント満足度、ニーズ把握、次回開催に向けた課題抽出
【対 象 者】イベント来場者（本学教職員含む）
【定量指標】本学が設定したアンケート項目集計結果
【定性指標】来場者満足度に関する自由記述

| まとめ | アンケート結果から本イベントの満足度が高いことがうかがえる。来年度の開催を期待する声も多数あった。 |
|---|---|

来場者が興味を持ったテーマ




来場者から寄せられたポジティブな感想

・さまざまな研究に取り組んでおられ、今後の企業としての取組みにも参考になりました。
・学生の皆様の学びの場であると同時に地域の活性につながる数々の取組みを拝見し改めて感銘を受けました。楽しませていただきました。
・ぜひ地域を中心とした学外に魅力的なこのような企画を発信してください。
・研究成果を見せていただける貴重な機会でした。
・デザイン、企画を総合的に作り上げる力に魅せられました。とても興味深いブースばかりでした。ありがとうございました。
・とても面白く見ることができました。
・すてきな取組がたくさんで感動しました。
・随分と盛大で精緻な展示がされていた。
・色々なテーマに取り組んでおられるのに驚きました。
・他の大学生にもこのイベントを知ってほしい。
・多種多様な研究があり興味深かったです
・入学希望者にはいい情報提供場所であると思った。
・娘が通っています。とてもいい大学で安心しました。これからもよろしくお願いします。
・来年も開催して下さい。
・他の大学にはないようなイベントだと思いました。来年もぜひ実施してほしいです。

来場者から寄せられた意見・課題等

・もっと広く伝えた方が良いと思います。
・導線を示してもらえた方が回りやすいと思いました。
・2階からの会場全体が見てみたかったです。
・文×理×芸のコンバージェンスサイエンス的なものの研究に期待します。
・参加できなかった企業・自治体に展示内容をWebで公開できると良いと思いました。
・講演会場の壁は無いほうが良いと感じました。
・今回のような企画がオープンキャンパス等であると、高校生や保護者の方にも、大学の様子を教えていただく機会になると感じました。
・オープンキャンパスと学園祭では年齢や来ている層も違うように見受けられたため、オープンキャンパスの一つを学園祭と一緒にすると魅力発信が倍増するように思いました。

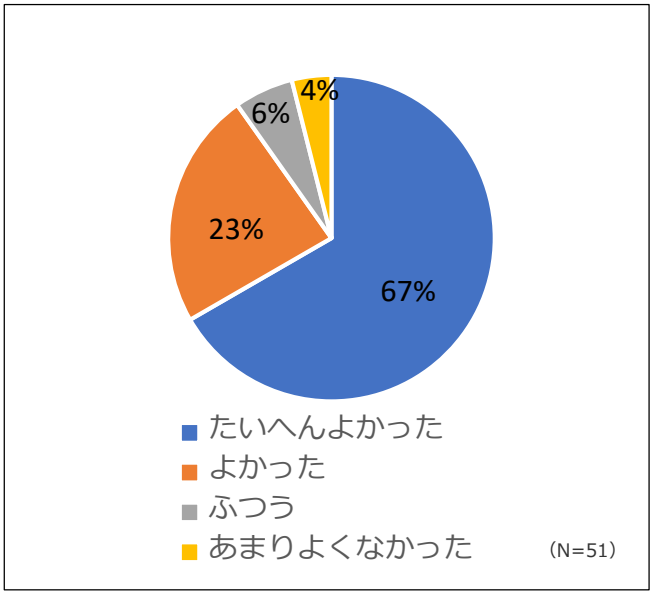
# 効果測定について

(2) 基調講演オンライン参加者の満足度等

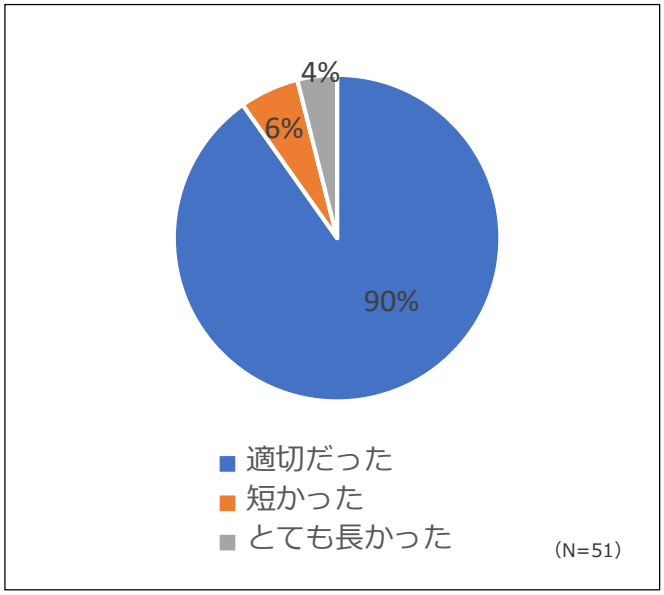
【目　　的】次回開催に向けた参考
【対 象 者】基調講演参加者
【定量指標】アンケート項目集計結果
【定性指標】来場者満足度に関する自由記述

| まとめ | 基調講演は非常に好評であった。 |
|---|---|

講演内容に関する満足度




講演時間（1時間）に関する満足度




参加者の声

- 製造メーカーに勤務する者としてReal artist shipsというスティーブ・ジョブズの言葉は腹に落ちました。
- アランリチュールの言葉は非常に印象に残った。
- チャレンジし続けることの大切さについて、改めて考えました。
- 何のためのAIか、という部分が興味深く感じました。
- AIについて、「先入観を持たない」「より良い手は常に存在する」
- 前例踏襲も時には必要なのかもしれないけれど、なにか一工夫してより良くなるのであるならば挑戦していくべきだと、改めて考える機会となりました。
- メタバースについては、あまり知識がなかったので参考になりました。
- 大手企業のトップが関心を寄せていることや視点をお聞きできて大変勉強になりました。固定概念に囚われず、新しい一手を模索する、というメッセージを強く感じました。もっと攻めていきたいと思います。
- ご聴講させていただき、未来をデザインすることは難しいことだが「常に良い手は存在する、目標なくばどこにも辿り着けず、先入観を捨て、新たなことに果敢にチャレンジしていきたい」とあらためて心に刻む思いでした。

# 効果測定について

(3) 出展者の満足度等

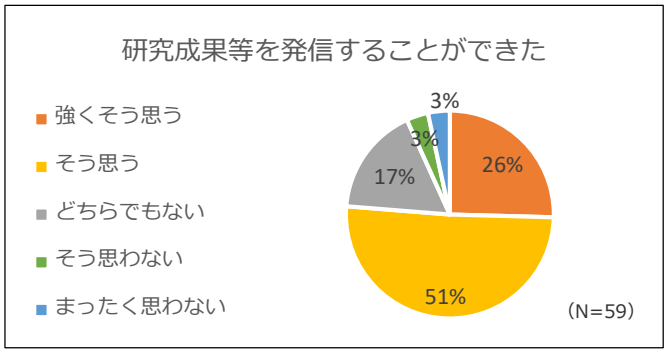
【目　　的】次回開催に向けた課題抽出
【対 象 者】出展者
【定量指標】ブース別来訪者数集計結果
【定性指標】出展者満足度調査結果、自由記述

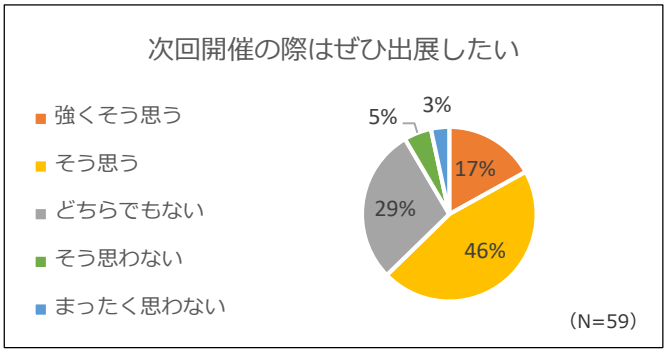
| まとめ | 来訪者数の多かったブースは、いずれも目立つ展示物がある傾向。出展者の満足度は概ね良好。次回出展を希望する者は約6割であった。 |
|---|---|

来訪者数が多かったブース（トップ10）

| 順位 | 出展番号 | 出展者名（部所名） | 2日間の訪問者数 | 出展内容 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 部所-3 | 図書館 | 312 | 郷土資料 引札（チラシ）から見る明治・大正時代の広告の歴史 |
| 2 | – | 大学院 | 308 | 研究成果展示会2022 |
| 3 | Z-1 | 造短：森下 | 242 | パッケージデザイン |
| 4 | PJ-e-1 | 経済：黒木<br>伝統み：濱川 | 235 | TRICKART PROJECT |
| 5 | 産学-10 | 芸学：柴村、百瀬、荒巻<br>地域：室岡 | 233 | KBCふるさとWishポスター制作 |
| 6 | 産学-3 | 地域：行平、豊島、佐藤 | 220 | 九州電力株式会社福岡支店と連携した朝倉市における観光振興プロジェクト |
| 7 | Z-3 | 造短：黄 | 156 | 移動販売車コバコバル車体イラスト制作・須恵メディカルコミュニティモール壁画制作 |
| 8 | 部所-5 | 総務部施設課 | 141 | 人と地球にやさしいキャンパスづくり |
| 9 | 産学-13 | 基礎セン：林 | 120 | 足部動態・足型計測システムの開発　【共同研究】アサヒシューズ株式会社 |
| 10 | 部所-7 | 学生部 | 115 | 「学生ボランティア活動を通じた地域課題へのコミットメント～サスティナビリティをキーワードに～」 |

※訪問者数は出展者の申告による。たたし、出展者に集計基準を明示していなかったため、訪問人数は参考値である。
※訪問者数を申告されていないブースの中にも、例えば出展番号R-1（キャンパス内ローカル５G/QTnet様との共同出展）など、多数の来訪者があったブースもあった。




本イベントに関する意見等

・自分の研究を客観的に見る良い機会だと思いました。他組織の取り組みは非常に参考になりました。
・学内でもなかなか交流がもてなかった先生方に研究について知っていただく大変良い機会をいただきました。近隣の研究者も参加されており、学内外の方から多くお声かけいただくことで、自分の研究の励みとなりました。出展をお世話いただきました職員の方々に感謝申し上げます。
・次回からは出展は学科のノルマではなく、学会以外に研究公表を希望する教員やKSU基盤研究費を支給されている教員にするなど、対象者を考慮いただきたい。

# 効果測定について

## ■「イベント終了後」の反響に関する効果測定

【目　　的】社会ニーズと本学教育研究の連携
【対 象 者】企業・自治体等
【定量指標】産学連携に関する問合せ件数
【定性指標】企業・自治体等から寄せられたニーズ情報等

| まとめ | 多くの産学連携に関する相談があった。産学連携ニーズを確認した企業等には、今後具体的な連携に向けたコンタクトを図っていく。 |
|---|---|

ブースに寄せられた個別相談の状況

| 区分 | ブース数 | 相談件数 |
|---|---|---|
| 産学連携に関する相談 | 15 | 31 |
| 学内共同研究に関する相談 | 5 | 7 |

実際に連携してみたいと感じたテーマ

- 取引先中小企業の課題解決及び地域を明るく出来るデザイン
- 介護リハビリロボット
- ICTを用いた幼児期身体活動評価
- VRへの取組
- キャンパス内ローカル5G
- グローバルフードビジネスプログラム
- 思考技法としてのレゴシリアスプレイメソッド
- 糸島市周辺、福の浦地区連携プロジェクト
- 食プロジェクト
- 健康食品
- 地域共創、地域活性化
- 地域公共交通運行管理支援システム関係

# 振り返り

## ■全体総括

・開催までの準備は、概ねスケジュールどおりに進行した。
・教職員参加者目標300人に対し、428人の参加があり目標を達成した。
・学外からは667人の参加があった。
・本イベントを通して来場者とのコミュニケーションを図ることができた。
・来場者、出展者ともに一定の満足度を得ることができた。
・本イベントを通して、複数の産学連携に関する相談があった。
・一部の教員にとっては今後の研究交流に向けた良いきっかけとなった。
・高校生の来場者も多くみられ、入試相談ブースに出向くなど、本学の魅力を伝える事ができた。
以上のことから、開催目的は概ね達成することができた。

## ■課題

・実行組織の役割分担が不明瞭であったことや、部所間のコミュニケーション不足により、運営に関する認識相違のほか、現場のモチベーションにもギャップが生じた。
・大楠アリーナは、スロープが無くエレベーターも小型であるため、設営資材の搬入を伴うイベントには不向きであった。
・大楠アリーナを利用する屋内サークルが11月から12月にかけて全国大会を控えていることもあり、期間中は、練習が出来ない状況になることから大楠アリーナでの開催について、検討する必要があり、学生に対しても配慮（練習会場の予約等）を要することも協議する必要がある。
・毎年開催となると、出展者側が十分な研究成果等を準備できるか不明瞭であり、毎年同じ出展内容ということも想定される。
・出展テーマの中には、客付きが芳しくないブースも見受けられた。
・学部系、センター系で同じ教員が出展する場合、各ブースの展示内容で重複が見られた。
・研究にはスキームがあることを鑑みると、研究者が毎年成果発表を行うことは困難であるため、研究シーズを中心としたイベント開催には時間的な配慮が必要かと思われる。

## ■次年度開催に向けて

・今回は研究シーズを中心に組み立てたが、次回は研究費増額に伴う教員の研究発表の場であるとの趣旨を明確に示したうえで開催の有無、方法（規模等）、時期、開催場所等を検討し、今年度中に決定する。なお開催にあたっては対象者等を明確にしたうえで開催内容を検討する。
・企画検討～実施にあたっては、主となる部所や現場の統括ディレクターを明確にするとともに実務体制を充実化したい。